



8月8日に最大震度6弱の地震が宮崎県を襲いました。ここ数年、南海トラフ地震の発生が危惧されていたこともあり、ついに来たか...と思われた方も少なくなかったと思います。また、8月15日まで、国から「南海トラフ地震臨時情報(巨大地震注意)」による特別な注意の呼びかけがあり、終了するまで心配や不安は続いたと思います。今回は、大きな被害はありませんでしたが、改めて、学校や家庭等の防災について考える機会になったのではないかと思います。また、今後40年以内に南海トラフ地震の発生する確率が90%程度とされていることに加え、日向灘地震については、プレートの「割れ残り」(過去に発生した地震の震源域で、プレートの岩盤が破壊されずに残った領域)が生じ、地震のリスクが高まっている可能性も指摘されていますので、今回の地震をきっかけに高まった地震に備える意識を継続しながら、日常生活を送っていきたいと思います。

南海トラフ地震について

宮崎県・津波及び被害の想定について
令和2年3月更新より

最大震度	市町村
震度7	宮崎市、延岡市、日南市、日向市、串間市、西都市、国富町、高鍋町、新富町、木城町、川南町、都農町、門川町
震度6強	都城市、小林市、えびの市、三股町、綾町、西米良村、美郷町
震度6弱	高原町、諸塙村、椎葉村、高千穂町、日之影町、五ヶ瀬町

南海トラフ地震が発生した場合の、宮崎県の各市町村の最大震度の予想図になります。震度7では、立っていることができず、はわないと動くことができない状態になり、固定していない家具などは、ほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともあります。



沿岸の各市町の津波高及び津波到達時間(県想定)

市町	津波高の最大値	津波到達時間の最短値	市町	津波高の最大値	津波到達時間の最短値
延岡市	14m	17分	高鍋町	11m	20分
門川町	12m	16分	新富町	10m	21分
日向市	15m	17分	宮崎市	16m	18分
都農町	15m	20分	日南市	14m	14分
川南町	13m	20分	串間市	17m	15分

南海トラフ巨大地震での被害想定と減災効果(県想定)

南海トラフ巨大地震が発生すると、津波と揺れにより大きな被害が発生すると想定されています。しかし、事前に災害に備えておくことで被害を大きく減らすことができます。

本県における最大の被害想定*(県想定)

- 人的被害(死者数) 約15,000人
- 建物被害(全壊棟数) 約80,000棟
- 避難者(1週後) 約370,000人
- ライフライン被害(地震発生直後)
 - 上水道(断水人口) 約1,034,000人
 - 電力(停電件数) 約591,000軒
 - 通信(固定電話不通件数) 約311,000回線

最大被害想定です。

人的被害(死者) 約15,000人

建物被害(全壊) 約80,000棟

避難者 約370,000人

と想定されています。しかし、事前に災害に備えておくことで被害を大きく減らすことができます。



本校の取組み

～土砂災害避難訓練・引き渡し訓練～

梅雨の時期を前に大雨による土砂災害発生時の避難訓練を5月29日に行いました。どの教室に移動をすればよいのか、何を持って行けばよいのか、確認をしながら実施することができました。長時間の避難に備えて、「○○があった方がいいね。」、「場所はあっちの方がいいね。」など周りと協力・連携しながら、実際の場面を想定しながら行うことで、多くのことにそれぞれが気づくことができました。その日の午後には引渡し訓練も行われました。福祉ゾーン内で、安全を確保しつつ、スムーズに行うことができました。訓練にご参加いただきました、保護者の方々、ご協力ありがとうございました。



～緊急対応訓練～

緊急時の対応について、アクションカードを用いながら、各学部ごとに訓練を行いました。緊急時にやることが「見える化」されたアクションカードを用いることで、新しくせいりゅう支援学校に赴任された先生も、それぞれの役割が明確になり、素早くスムーズに対応することができました。



～夏休み職員研修～

各学部ごとに、ローテーションをしていきながら、「南海トラフ地震について「学校危機管理マニュアルの確認」、「各教室の地震対策」、「消防体験」の3つの内容の研修に取り組みました。



様々な状況に応じた対応を記載しています。



ベルト等で固定をしたり、対策を各学級で取り組みました。



全職員、手順を確認し、消火器訓練を行いました。



～ショート訓練～



4月「地震発生」、9月「弾道ミサイル発射」を想定したショート訓練を行いました。事前予告なしで行いましたが、マニュアルに沿いながら、落ち着いて身を守る行動をとることができました。